Ⅴ. その他報告（代表理事　杉尾　哲）

1. 理事会を開催しました

令和５年度の理事会は、計６回開催して活動を協議した。

第１回　令和５年４月 20 日（木）　　宮崎市民活動センター　６名出席

通常総会の準備、令和６年度の活動予定、小中学校を対象とした水辺環境調査などについて協議

第２回　令和５年６月 19 日（月）　　宮崎市民活動センター　５名出席

大淀川クリーンアップ、流域治水シンポジウム、水辺で乾杯などについて協議

第３回　令和５年８月 21 日（月）　　宮崎市民活動センター　５名出席

大淀川フェス 2023、九州「川」のワークショップ、DELL イベントなどについて協議

第４回　令和５年 10 月 18 日（水）　　宮崎市民活動センター　５名出席

大淀川クリーンアップの名称変更、大淀川フェス、九州「川」のワークショップの発表課題、カレ

ンダーの絵と写真の受賞作品の選定などについて協議

第５回　令和５年 12 月 20 日（水）　　宮崎市民活動センター　５名出席

大淀川環境保全人材育成イベント、発足 20 周年記念式典などについて協議

第６回　令和６年２月 14 日（水）　　宮崎市民活動センター　５名出席

定款の変更、九州河川協力団体連絡会議、全国一斉水質調査の申請、通常総会の資料作成、広報誌などについて協議

考察

理事会は、偶数月の中旬に年６回２時間ほど開催していて、毎回、事務局が準備した資料を基に前回以降の活動状況の報告と開催日以降の活動予定を報告した後、協議事項の数件について協議している。理事全員が勤めを持っていることもあって全員が揃うことは困難な状況ではあるが、今後もできるだけ全員で開催できるように努めるべきであると評価します。

２．「宮崎県自然豊かな水辺の工法研究会」を運営しました

この研究会は、宮崎県との協働事業として平成 19 年度から実施していて、本団体が事務局を務めている。河川に携わる行政や企業の技術者に対する多自然川づくりの人材育成として、水辺の工法研修会、川づくりコンペ、身近な水辺のモニター報告会、現地研修会などを開催した。

●水辺の工法研修会の開催

本年度の研修会は、平成 19 年に開始してから 15 年が経過するにあたることから、国土交通省九州地方整備局長に特別講演のお願いして県南会場だけで開催した。第２回と第３回はコロナ禍以前と同様に県北会場と県南会場で開催した。

1)令和５年度 第１回研修会　15 周年記念特別講演会

実施日：令和５年４月 24 日（月）　会場:宮崎市民文化ホール

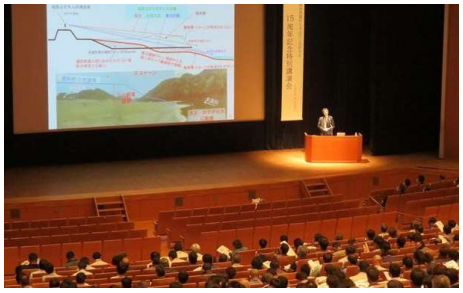
講師１：大淀川流域ネットワーク　代表理事　杉尾　哲　氏

題名：水辺工法 15 年を振り返る

講師２：国土交通省九州地方整備局　局長　藤巻 浩之　氏

題名：川と人や地域との関りについて

受講者数：行政 95 名、民間 564 名



2)令和 5 年度 第 2 回研修会

実施日：令和 5 年 8 月 28 日（月）会場：宮崎市民文化ホール
令和 5 年 8 月 29 日（火）会場：日向市中央公民館
講師 1-1：宮崎県都城土木事務所長 小牧 利一 氏
題名：有水川における河道掘削の工夫
講師 1-2：宮崎県串間土木事務所 山田 凌央 氏
題名：自然環境に配慮した福島川の河道掘削について
講師 1-3：宮崎県宮崎土木事務所 杉本 尚輝 氏
題名：井倉川における多自然川づくりに配慮した河道掘削について
講師 2：信州大学 教授 東城 幸治 氏
題名：「生物多様性ホットスポット」の可視化による水系内の重要流域の評価
受講者数：行政 35 名、民間 672 名

3)令和 5 年度 第 3 回研修会

実施日：令和 5 年 10 月 23 日（月）会場：宮崎市民文化ホール
令和 5 年 10 月 24 日（火）会場：日向市中央公民館
講師 1：熊本大学 准教授 皆川 朋子 氏
題名：平成 29 年 7 月九州北部豪雨被災河川を事例として，河川災害復旧のあり方を考える
講師 2：宮崎大学 名誉教授 岩本 俊孝 氏
題名：多自然型川づくりにおける豊かな哺乳類相を保証する要素について
受講者数：行政 23 名、民間 556 名

●身近な水辺のモニター担当者への説明会の開催

各土木事務所で河川モニターと実施する川の生き物のすみかの環境調査シートによる河川特性調査について、実施方法を解説して、河川での実習を行った。

実施日：令和 5 年 5 月 19 日（金）
会場：綾町役場 第一会議室・本庄川 松原公園
講師：九州河川研究所 代表 杉尾 哲 氏
参加者数：県河川課と土木事務所 10 名

●水辺の工法 現場研修会の開催

令和 4 年度に完成した「河川環境評価プログラム」の使用方法について説明し、三財川を題材としてプログラムでの評価結果を基に改善点について班で討議して、検討内容を発表した。

実施日：令和 5 年 6 月 12 日（月）
会場：宮崎県建設技術センター 大会議室
講師：九州河川研究所 代表 杉尾 哲 氏
講義名 「河川環境評価プログラム」について
参加者数：県河川課と土木事務所および宮崎河川国道事務所 15 名

●第 16 回うるおいのある川づくりコンペの開催

「私たちがめざすうるおいのある川や水辺はどんな姿なのか」について、河川で活動する企業・行政に呼びかけて開催した。

実施日：令和 5 年 7 月 28 日（木）
会場：県電ホール
発表団体数：13 団体、参加者数：42 名
審査の結果を以下に示す。

【金賞】団体名：国交省宮崎河川国道事務所
テーマ：八重川津屋原沼周辺の堤防整備と環境保全について
【銀賞】団体名：宮崎県都城土木事務所
テーマ：大淀川水系上流域における河道掘削工事の工夫とその後の変化
【銀賞】団体名：宮崎県西臼杵支庁
テーマ：神代川かわまちづくり～10 年の時を経て～
【銀賞】団体名：宮崎県延岡土木事務所
テーマ：iRIC を活用したゴソ対策検討
【銅賞】団体名：宮崎県串間河川国道事務所
テーマ：自然環境に配慮した福島川の河道掘削について
【銅賞】団体名：宮崎県西都土木事務所
テーマ：急流河川「銀鏡川」の災害復旧と多自然川づくりの取り組み

審査の結果、宮崎県の課題については都城土木事務所と西臼杵支庁の 2 件が代表として九州ブロック川づくりコンペの発表課題に選出され、都城土木事務所の課題は福留修文賞を受賞した。国交省から応募した宮崎河川国道事務所の課題は九州大会で部門賞を受賞して九州代表に選出され、全国多自然川づくり会議において優秀賞を受賞した。

審査員：宮崎河川国道事務所　副所長　西野 公雄　氏
延岡河川国道事務所　副所長　下村 慎一郎　氏
宮崎県県土整備部　河川課長補佐　前田 秀高　氏
宮崎大学工学教育研究部　准教授　大榮　薫　氏
NPO 法人手仕事舎そうあい　理事長　蒲生 芳子　氏
九州河川研究所　代表　杉尾　哲　氏

●身近な水辺のモニター報告会の開催

県内 12 か所の土木事務所等で地域住民の方々に委嘱している水辺のモニターの報告会を開催し、モニターと担当の土木事務所で発表して、意見交換した。

実施日：令和 5 年 2 月 10 日（金）
会場：県電ホール
コメンテーター：元宮崎県河川課長　阿佐 真一　氏
発表団体数：12 団体、参加者数：49 名

考察

以上の宮崎県との協働事業は、多自然川づくりのための人材育成として機能している。水辺工法の研修会は、第 1 回は 15 周年記念特別講演会として開催したが、第 2 回と第 3 回はコロナ禍以前と同様に開催した。この研修会の開催が本県の多自然川づくり推進の原点であり、その成果として九州ブロックの川づくりコンペや全国多自然川づくり会議などにおいて本県の川づくりが高く評価されている。次世代にうるおいのある良い川を受け渡すために、今後も引き続き開催できること

を期待しています。

３．河川協力団体として活動しました

本団体は、大淀川下流域の河川協力団体として活動している。その活動として、宮崎河川国道事務所と住民団体との連携・協働、防災や環境情報の収集、河川に対する住民の理解の促進を図るために、みやざき川づくり交流会の運営補佐と簡易水質調査の実施補助活動を行った。

●簡易水質調査の実施補助

宮崎河川国道事務所が地元の小学校等と共に実施する簡易水質調査において水生生物調査の実施補助を担当した。前日からの荒天により、屋内での実施に変更して行われた。

実施日：令和５年６月７日（水）
実施場所：綾町体育館
対象：綾町立綾小学校　４年生

考察

河川協力団体としての活動は、宮崎県内の環境団体との連携を深めるとともに、宮崎河川国道事務所との相互理解を深め、本団体の活動を連携して推進するのに極めて重要である。今後も積極的に継続すべき取り組みであると評価します。

4. 高校生が河川環境を調査しました

●延岡高校の文部科学省ＳＳＨ事業のフィールドワークを指導しました

宮崎県立延岡高校からの依頼で、同校の文部科学省 SSH 事業のフィールドワークとして北川の霞堤前において河川環境の測定と河川環境評価プログラムによる評価を指導した。

実施日：令和５年 10 月 13 日（金）
実施場所：延岡市北川町本村
指導者：当団体４名、宮崎県河川課１名、宮崎県延岡土木事務所２名、地元団体１名
対象者：延岡高校普通科生徒 80 名と関係職員
測定項目：川づくりチェックシート、五感を使った調査項目など

●都城工業高校の大淀川水質測定が再開されました

宮崎県の新しい公共推進モデル事業として採択されて平成 23 年度と 24 年度に当団体が運営していた都城河川水質改善プロジェクト協議会において河川水質のモニタリングを担当していた都城工業高校は、事業終了後も宇賀村先生のご指導で生徒達による大淀川上流域の水質測定が続いていました。その測定結果が令和２年２月まで当団体に送られていたのでホームページに掲載していましたが、コロナ禍の影響で途絶えていました。この度、後任の大崎先生より測定を再開したとのご連絡があり、以前と同様にホームページに掲載させて頂いています。

令和６年２月 28 日(日)に開催された NPO 法人都城大淀川サミット主催の第 15 回環境大学においては、この測定結果を引用して、「大淀川の水質改善について」と題してサミットの会員に水質改善の必要性を講演した。

考察

この２件は、高校生の河川環境への意識の向上に関する活動である。延岡高校の河川環境の測定は、全国に清流として名高い四万十川や長良川などと同じ最良級の河川環境の評価値を持つ河川が地元を流れていることを知る感動を生徒達に与えて川の大切さを気付かせる機会となっている。都城工業高校の水質測定は、生徒達に地域が抱える河川環境の課題を認識させて探求させる機会を提供している。また、測定結果は、大淀川の水質でBODの環境基準の達成が非常に厳しい状況にある志比田橋地点の汚染源を推定する根拠となっていて、大淀川の水質改善に重点的な取り組むべき個所を示唆している。次世代にうるおいのある川を受け渡すために、今後もさらに充実させて取組むべきであると評価します。